

施設の今後のあり方

**存続
(利活用)**

理由

- ①身近な自然とふれあう参加学習型の公園
- ②フリーゾーン・実証展示林とハーモニーランドの一体性
- ③大分県にもたらされる経済効果

目指すべき
施設像

- ①夢空間にあふれた遊園地とフリーゾーン・実証展示林が一体となった何度も訪れたい公園
- ②体験・学習・発見ができる公園
- ③誰もが楽しめる安全・安心な公園

目指すべき
利用者像

- ①小さな子ども連れのファミリー層や友人連れの若年層
- ②東アジア圏をはじめとする国外利用者
- ③竹工芸教室等に参加する小・中学生
- ④自然志向の中高齢者層

定量的目標
達成指標

- ①ハーモニーランド入園者をフリーゾーンエリアに誘引 7割 (R2: 約5割)
- ②実証展示林エリアで開催する参加学習型イベント数の増 10回/年 (R2: 4回/年)

定性的目標
達成指標

- ①ハーモニーパークの魅力を広く周知するための情報発信、広報の充実
- ②利用者ニーズを把握しハーモニーランドと連携した施設・設備の整備
- ③実証展示林エリアの効果的な活用による利用者の掘り起こし

主な課題と解決策

【課題】

- ①人口減少・少子高齢化に関する課題
 - ・人口減少・少子高齢化により、ファミリー層以外の集客が必要となる。
- ②施設管理に関する課題
 - ・開園から30年が経過し、施設全般の老朽化が進行しているため、計画的な修繕等が必要となる。
- ③実証展示林の有効活用と利用方法の拡大
 - ・実証展示林エリアが有効に活用されていない。植樹木が巨大化し、自然景観を阻害している。

【解決策】

- ①・若年層をターゲットにしたイベントの開催や「Kawaii」を意識した商品等の開発
 - ・SNS等を活用した広報
 - ・アフターコロナを見据えた外国人観光客の誘致（東アジア文化都市2022おおいた等でのPR活動）
- ②・長寿命化計画に基づいた施設・設備の更新

園路の丸太階段（令和4年度～6年度）	園路のテーブル（令和6年度～7年度）
園路の丸太橋（令和8年度）	園路の柵（令和6年度～9年度）
- ③・京都嵐山「竹林の小径」を模した散策路を整備し、入園者を誘引、ハーモニーランドとの相乗効果で更なる来園者増を目指す。
 - ・竹工芸教室等参加学習型のイベントを開催
 - ・ハーモニーランド入園者を実証展示林エリアへ誘引するため、サンリオキャラクターを活用したフォトスポットを設置